西東京市市民協働推進センター

平成 26 年度第 4 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 26 年 7 月 15 日(火)午後 7 時～9 時 10 分
■開催場所：イングビル 3 階第 1,2 会議室
■出席委員：池田委員、岸委員、久保委員、熊田委員、小嶋委員、紺野委員、田中（紀）委員、谷委員、富沢委員、豊永委員、中村委員、藤江委員＜以上 12 名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、齋藤、丸木地域福祉課長、塚澤主事

○坂口委員長欠席のため、代行として豊永副委員長が議事進行を行った。

1. 報　告　事　項

1. 業務報告について

事務局より、6 月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談状況について説明があった。

委　員：大学生からの戦時中のパイロット探しの問い合わせの事例のような場合、ゆめこらぼが問合せ先として考えるのは、登録団体やゆめこらぼによく来る人たちということか。

事務局：そのように対応している。

委　員：公民館がこのような人たちを把握しているはずで、公民館まで問合せを広げることがゆめこらぼの役目にはならないのか。

事務局：基本的にはネットワークを広げていく使命もあり、そこに繋がっているということであれば、そうしていきたい。

委　員：定年退職者に地域デビューの相談に対応している事例では、担当する職員個人の知識頼みなのか、それともデータベースで検索し該当団体を探し出せるような仕組みになっているのか。

事務局：後者のような仕組みになればよいが、実際上それがないので、現状は応対した職員による対応になっている。他の職員に確認したり、センター全体での情報共有によるフォローは行っている。一部、お助け情報という形でもやっているが、活性化というところまではできていない。

委　員：一度預かるということもあるだろうが、その場で答えが出るということが相談者にとっては一番望ましいことである。対応する人次第で答えが変わることがあると理解してよいか。

事務局：その場限りということでなく、相談記録として残しておくので、職員全体でその情報を共有し、きちんと相談者の方への対応が完了するまでフォローしていくようにしている。

2. 7 月以降の事業について

事務局より、7 月以降の実施事業である NPO 市民フェスティバル第 1 回実行委員会、地域連携促進事業スタッフ情報交換会、行政職員と市民活動団体との懇談会、地域連携促進事業まちづくり円卓会議、NPO 市民フェスティバル第 1 回実行委員会について説明があった。

委　員：行政職員と市民活動団体との懇談会は、行政職員 19 課 19 名が参加予定ということであるが、前回は若い職員が多く出席された記憶がある。今回はどのくらいの役職の方が参加予定なのか。

事務局：役職までは聞いていないが、どちらかというと若い職員のようだ。

2. 審　議　事　項

１．前回の会議録について

副委員長：特に意見がないようなので、未定稿を確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. 協働推進事業について

事務局より、協働を考えるシンポジウムの企画案について説明があった。

委　員：基調講演する NPO 法人 NPO birth（以下、birth と略す）は西東京市に拠点があるようだが、ゆめこらぼの登録団体なのか。

事務局：団体としての登録はしていない。

委　員：これを機会に登録してもらうのか。

事務局：そのように交渉したいと思っている。

委　員：パネリストは登録団体を優先的に選考した方がよいのではないか。運営委員が代表の西原自然公園を育成する会は活動が活発であり、選んで欲しい。

委　員：下保谷の屋敷林や東大農場で活動している方がパネリストでも西東京らしさが出るのではないか。

事務局：パネリストはこの案で決めているというわけではない。ご意見を踏まえて選考していきたい。

副委員長：委員の意見を含めて選考を進めていただきたい。

委　員：birth は、いろいろな緑を守る人たちともネットワークで繋がり、とてもすばらしい活動をしている NPO だと思う。

委　員：講演予定者の佐藤留美さんは、東京都全体の関わり合いの中でかなり幅広い考えをお持ちの方で、仕事は主に公園の維持管理関係である。市単位での緑という枠に収まらないのではないかと感じる。

事務局：西東京市役所でもコミュニティガーデンについての検討が始まっている。birth がやっているコミュニティガーデンを西東京に置き換えた中での議論に持っていければと思っている。

委　員：企画案のパネリストでは、かなり活動にバラつきがある団体のような感じがする。

事務局：絞るとするとテーマや分野をどのように絞った方がよいか。

委　員：農地で活動されている方が西東京市の農地をどのように考えているかということが現状把握できていない。寺社林関係者などは良い。ただ、三鷹市の話とはどのように結びつくかはわからない。

委　員：テーマ型というのが一つのテーマである。テーマを絞るのではなく、ちょっと広いテーマのところで、二、三個ばら撒いてやっていこうという考え方なのか。発想と考え方とテーマの絞り方をきちんと決めておかないと、発散してしまい理解が曖昧になり、参加者が偏ったりする。ガーデン、畑、農地、林などで括りが広すぎるのではないか。

事務局：緑という括りが一つのテーマであると考える。それを細かく分けていけば、コミュニティガーデン、農地、寺社林、屋敷林というような形がある。それだと発散してしまうので、絞った方がよいということであれば、コミュニティガーデンならコミュニティガーデンに絞ることはできる。

委　員：年に何回か開催するのであれば、今回はこのテーマに絞るとして、次回は他のテーマというようにした方が、そこに参加する人が参加しやすいと考える。

事務局：運営委員のご意見がもう少しテーマを絞った方がよい、そのテーマとしてはこれがいいというのであれば、それに絞りたいし、それでは狭すぎるのであれば、またいろいろと考えたい。

委　員：昨年度は三鷹市の事例をテーマにしたが、パネリストが個々の活動を紹介して終わってしまった。今回も、パネリストがそれぞれのことを言って終わってしまうような感じはある。

委　員：「緑×協働＝コミュニティ」がテーマなのだから、コミュニティが答えなのだと思う。何かを行いながら最終的にコミュニティとしてこういうものができたという事例がたくさん紹介さ

れれば、それはそれで意味があると思う。
事務局：正にそういうことだと考えている。緑を使ったコミュニティとしてガーデンもあれば、寺社林や農地もあると捉えたが、それでは少し発散するというのであれば、絞ることも考えられる。
委　員：緑というのはどの範囲のことなのかということが重要になる。パネリストをお願いする段階でこういうことをテーマとして話をして欲しいと依頼してもよい。その前提としては、我々が考える緑というものがどの範囲の緑なのかということを固めた方がよい。実際にそれが固まった段階で、その方が相応しい内容を話していただけるか、またはそれをお願いできるのかというところを確認するのがよい。
委　員：ターゲットを細かく絞る必要はなく、それぞれの活動の中でポイントは協働ということを入れた話があれば、それほど緑全体に散ってしまうということはない。協働を頭に入れて話を進めて欲しいというお願いをすればよい。
委　員：協働と緑ということであれば、町の緑を守るには市民の力が大きく、協働でないと守れないから取り上げやすい。そこにポイントを絞って、協働で緑を造っている人たちがそれぞれこんな形で役割を受け持っているというように展開すればいい。
委　員：基調講演、パネルディスカッションという二部構成に拘る必要はない。たとえば、基調講演のあとに、第2部として個別のテーマについて小グループで分科会をやり、第3部で各分科会でどんなことが話し合われたかということを全体の会場に持ち帰ってくるというようなやり方がある。もし、緑という意味合いを幅広く捉えるやり方をするのであれば、その方が話が深まるし、思わぬ視点が出てきたりするのではないか。
委　員：シンポジウムは公開でやるが、分科会形式でやるという場合はどうなるのか。
委　員：小さな会議室があと3つ程は必要になる。分科会ごとに会場移動し、また、基調講演会場に戻ってという流れになる。
委　員：シンポジウムの狙いは、市職員の研修の意味合いがかなり強い。西東京市での協働をテーマとして絞った場合、コーディネーターの佐藤さんがどこまで西東京市のことを把握していて、緑と協働の話に持っていけるのか疑問である。
事務局：そこを補う意味で、パネリストに行政として西東京市の職員も、市民として市内NPOの方も入っていただくことを考えている。過去のシンポジウムでも、他市の方に基調講演をお願いし、それぞれの地域でどのように協働に取組んできているのかというお話をしていただいている。このシンポジウムは市民や行政に対しての啓発的な意味で開催しているので、基調講演での協働の事例が必ずしも西東京市ということではない。西東京市でミックスするような形で構成している。
委　員：西東京市でうまく協働ができているという良い事例があれば、その事例をたくさん出した方がよいと思う。
事務局：それは基調講演をそのように変えるということか。
委　員：パネルディスカッションでの話の構成を、西東京市での成功事例をそれぞれ挙げて、こういう事例があるということを職員に知ってもらえるようになれば、目的に適うのではないか。
事務局：もともとパネルディスカッションではそのような事例を含めるという考えである。
委　員：パネリスト候補の人はどのように選出されたのか。スタッフの人脈からの選出か。
事務局：birthの佐藤さんとお話をした中で選出した。
委　員：現時点で行政と協働している団体はいくつもあり、その成功事例を行政にも確認して候補者を出してもらった中から選んだのか。あるいは、ゆめこらぼのスタッフで選出したのか。
事務局：birthとの打ち合わせで、「緑で協働してコミュニティ」を目的にして、話を進めて行こうとい

うことが第一にあった。選出した中のひとりは、まちづくり円卓会議にも協力してもらい、農地保全という形で協働して農家や地域住民とを繋げていく考えをもっている方を候補に挙げた。また、たとえば田無神社については「やおよろずのさんぽ市」という形で寺社林を守りながら、人を巻き込んでコミュニティづくりの活動をしているということで名前を挙げている。また、分科会形式は良い企画と感じるが、会場と時間の都合上、その形式を取ることが難しい状況にあることを了承してほしい。

委　員：コミュニティガーデンというのを教えていただきたい。

事務局：住宅街の中の公園に昔のようにはコミュニティができていない為、市民や近隣の方自らが公園をガーデン化することによって、そこでコミュニティが生まれるようにする。そういう活動のことである。三鷹市では、行政が年間の目標数を決め設置している。

委　員：西東京市には大小合わせると約 260 の公園があり、住宅の開発に伴う小規模の提供公園（開発事業により整備した公園のうち、都市計画法の規定等により市に既存する公園）が増加している。公園の管理は、協力会という形で相当数の市民グループが行っているが、追い付いていないのが現状である。そこで市民に協力していただき、それを契機に地域の人がコミュニティを図れたらよいのではないかというのが行政側が考えている事だと思う。三鷹市で行っていることと西東京市のみどり公園課が考えていることが同じかどうかはわからないが、そういう意味では birth の佐藤さんが三鷹市の成功例の話をするのもいいと思う。

委　員：シンポジウムを通じて協働が何かを行政の職員にわかってもらおうというような考え方は反対である。行政側がこのシンポジウムを研修と位置付けていても、主催者側のゆめこらぼとしては、行政職員に啓発活動をするというようなことは考えなくてもよいのではないか。

委　員：成功事例を教えるのではなく、成功している話をすると、行政の人がそれなら自分のところでも使ってみるかというように横に結びつくこともある。

委　員：緑×協働という基本コンセプトがあり、それを実際に話される佐藤さんの１つの持ち味が西東京市に拠点はあっても活動は西東京市だけではなく他市のこともご存知だということになると、パネリストに三鷹市の人を入れる必然性がない。西東京市でコミュニティガーデンの取組みをされている方か、それに近い方を入れてオール西東京市で組んでもよいのではないか。

委　員：コミュニティガーデンが今まで西東京市にそれほどなく、その先進事例である三鷹市の話をしていただくのはありがたいことだ。農地関係だったら、空いている敷地を自治会で公園にしてそこでお祭りとか催すことでコミュニティが強くなったという自治会の例があれば、その方がいい。公園ということであれば、三鷹市の例はよいが、畑はどうかと思う。

委　員：論点は三つある。一番目はテーマで、このテーマは非常にいいと思われ、テーマについての意見は出ていないので決定で良いのではないか。二番目はシナリオで、基調講演でコミュニティガーデンの必要性が話され、続いて携わる人によるパネルディスカッションになれば、シナリオも問題ない。三番目のパネルディスカッションのパネリストについては、全員一致での決定は難しく、多数決か事務局推薦を運営委員会が応援するしかない。今回のディスカッションがいいように進めば、続けて２回目、３回目を実施し、その中で広がっていけばよいのではないか。

事務局：最終的には、人選については佐藤さんとも相談し事務局で決めさせていただきたいが、コミュニティガーデンや寺社林や屋敷林など要素が多いと発散するという意見、そうではなく絞った方がよいという意見、あとは三鷹市の事例を入れた方がよいかというあたりを運営委員会で決めていただければと思う。

委　員：基調講演は三鷹市の例、これを一つのきっかけづくりということでスタートし、パネルディス

カッションは、成功を可能にするような西東京市を中心とした方たちで集約していく方がすっきりする。活動している人たちを成功に導くような、この人を呼んだらわくわくするというような人選を再度、今名前が挙がっている方を含めて、考え直していったらどうか。

委　員：西原自然公園を育成する会のように、西東京市にはそういう芽があるのだというのがあるのであれば、出ていただくべきだと思う。

副委員長：それを踏まえて事務局の方で検討していただきたい。

委　員：農地に関してだが、自分の農地を市民農園として開放してそこでコミュニティを作っている農園が市内にある。もし農園を入れるのであったら、市民農園ということで市との協働にもなっているだろうし、そちらの事例を推したい。

副委員長：これらの意見を踏まえて、事務局で検討し事業を進めて欲しい。

2. 今後のセンターのあり方について

運営委員を対象に行った「運営に当たっての基本的な考え方」、「市民活動の支援に関する業務水準」、「センターの運営に関する業務水準」について実施したアンケート結果をもとに事務局がまとめた「今後のセンターのあり方」について事務局の説明後、協議を行った。

4. そ　の　他

１．次回運営委員会日程について

次回は、8 月 19 日（火）に基本的に懇親会として開催する。詳細について後日連絡をする。